

資料紹介 諸井興久収集考古資料

秋山 寛行

はじめに

本稿は初代本庄町長であつた諸井興久（天保十年〔一八三九〕～明治三十三年〔一九〇〇〕）が収集した考古資料について、興久自身による収集時につけた記録がわかる遺物の目録化と写真撮影を行い、資料紹介をするものである。なお主要な資料についてはかつて長谷川勇氏・石橋桂一氏によつて実測と解説も行われているが、その成果に学びながら本稿では興久による考古資料の収集活動に焦点を当てたい。

一 諸井興久について

本庄に諸井家は北諸井家・南諸井家・東諸井家の三家があつたが、興久はこの内の南諸井家の人物である。南諸井家は興久の息子である諸井巴が春風書店という書店を開いたことから「本屋諸井」とも呼ばれた。興久は、天保十年（一八三九）、諸井五左衛門の次男に生まれ、文久三年（一八六三）名主役に就いた。明治二年（一八六九）には肝煎名主、その後、区長、学区取締を勤めた。この間、岩鼻県・入間県・熊谷県・埼玉県に出仕した。明治十五年（一八八二）に北埼玉郡長に任じられ、翌年の明治十六年（一八八三）には児玉・賀美・那珂郡長に就いた。明治十九年（一八八六）に職を辞して蚕糸組合取締頭取とな

る。そして明治二十二年（一八八九）に初代本庄町長に就任した。町長として明治二十四年（一八九一）まで、町会議員としては明治二十五年（一八九二）まで在職した。詩や書、和歌を得意とし、「稼堂」と号した。明治三十三年（一九〇〇）十一月十八日、六十二歳で病没した。墓は安養院にある。

二 資料の概要

ここでは紹介する考古資料の全体像を示しておきたい。資料には興久自身が採集した年月日、出土地や場所、譲渡されたものといった情報を遺物に直接、もしくは紙片に記入している。それらから資料の種類としては「土器」・「石器」・「古墳出土品」・「瓦」・「その他」に分類した。

「土器」は縄文時代のもので、すべて破片である。出土地がわかるものでは氷川神社で採取されたものが多い。

「石器」は打製石器や磨製石器、石鏃を収録した。

「古墳出土品」は埼玉県本庄市飯玉古墳出土遺物、岡村古墳、將軍山古墳出土遺物、群馬県高崎市八幡出土遺物、高崎市榛名町出土遺物、奈良県三味田宝塚古墳出土遺物がある。これらを見ると埼玉県外のものも埼玉県内の両方の遺物を収集していることがわかる。

「瓦」は埼玉県内外から収集した瓦を収録した。

「その他」には上記以外の遺物を分類した。かわらけや砥石、化石など多種多様な遺物を収集している。

三 興久による資料の収集と整理

資料への記載方法は直接記入されたものと、紙片に記入されたものがある。ここでは遺物の収集期間について収集年が特定できるものからみていきたい。

現存する遺物の中で一番古いものは【一三〇番】かわらけで、明治六年九月である。次に【一二九番】かわらけであり、明治十一年（一八七八）三月である。これらは同所から出土したものである。明治十二年（一八七九）になると同年三月に「常陸国筑波郡筑町国造屋敷跡ヨリ得」た【一二三番】平瓦が加わっている。

明治十三年（一八八〇）十月には入間郡小谷田村字狐塚から丸瓦【一一七番】や平瓦【一一九番】がある。【一一八番】にも「入間小谷田村」と記載があるので、同所で入手したものであろう。他にも同所より縄文土器【十二番】や石核【二〇番】も入手し、神社の近くの畑からも打製石斧【二二番】を入手している。他にも同所出土と思われる土器や石器に「入間小谷田村」と記載がある。

明治十五年五月十五日には入間郡浅羽村字秦戸で入手した平瓦【一二二番】がある。そこには「秦戸神社アリ其傍二大小二塚アリ其小塚ヲ崩シタル脇ニ石塚アリ其衆石中ヨリ得ル」と書かれ、小塚を崩した後、石塚の中から出土したと発見の経緯が記されたものもある。

また同日に氷川神社でも採集をおこなっている。【四番】の土器に「明治十五年五月十五日武蔵国北足立郡氷川神社境内之櫻山ニ於テ得ル所八個ノ一」と書かれ、他の遺物にも「氷川神社」「氷川ノ桜山」と簡略に記している。まとめて入手したと思われる。

明治十五年六月には横見郡田甲村で縄文土器【二番】と打製石斧【二八番】を入手したことがわかる。

明治二十年代に入ると古墳出土品の収集が始まる。古墳出土品につい

ては直接書き込めなためか、紙片に来歴を記したものを貼り付けたものや、別の紙に来歴を記し、同じ出土地のものでまとめて保管していたものがある。明治二十一年（一八八八）一月には本庄市飯玉古墳より発見した圭頭大刀把頭【二〇九番】がある。内側には興久の手で「二十一年一月一八日外数種本庄宿字飯玉ヨリ得処七ノ内」と書かれた紙が貼られている。他にも刀子【九七番】や切羽・鉏【一一〇番】・鞘口金具【二一一・一二三番】などがある。明治二十八年（一八九五）二月には將軍山古墳よりガラス小玉【九六番】、金銅製棘葉形杏葉【二〇二・一〇四番】が出土している。このうち【二〇二番】と【一〇三番】には興久による記録が貼られ、「外三輪玉及小玉二百」と記され、他にも出土遺物があつたことをうかがわせる。明治二十九年（一八九六）の冬には群馬県の里見村古墳より出土した「金銅製鏢」【二〇五番】を入手し、明治三十一年（一八九八）十一月にはガラス製丸玉【八七・九〇番】なども見つかった。群馬まで足を伸ばして入手したものであろうか。この他にも収集時期は未記載ながら古墳出土品が伝わっている。

明治三十二年（一八九九）六月には「亀井戸」（亀戸か）の「寛文天和年度ノ鑄銭所跡」から砥石を入手している【一二七番】。来歴にもとづけば江戸初期の作で、貴重であるとともに、興久の興味の幅の広さもうかがい知れよう。

以上のように興久自身の記録の残る遺物から推測すると収集期間はおよそ明治六年から明治三十二年までである。この間、興久は三四歳〜六十一歳であり、壮年から晩年にかけて収集したことがわかる。公務の傍ら収集活動を亡くなる直前まで続けていたと考えられる。

収集方法は現地に赴いての採集、交友関係による遺物の交換、古物商

からの購入などで集積されたと思われる。また県外の遺物、特に大和国出土遺物などは交換もしくは購入による入手と考えられる。興久の土器収集がわかる古文書が次の資料である。

【参考三】

証

一 土器三個

但国造屋敷外式ヶ所より出ル

右懇望に付御譲り被下

正二領収候也

明治十二年

五月七日 諸井興久

この文書は相手や、どの土器かは不明であるが明治十二年に「土器三器」を譲ってもらった際の証文である。

保管方法については、興久は几帳面な性格であったことが想像され、収集した遺物も箱に分類して保管している。特に古墳出土品と石鏃は木箱三つとブリキ箱二つに保管されていた。目録では興久の当初の保管状況を示すため【木箱1】・【木箱2】・【木箱3】・【ブリキ箱1】・【ブリキ箱2】と記載した。

四 興久の交流関係

交友関係については遺物の目録を残さなかったこともあり、不明瞭な点が多い。その中でまずあげられるのが根岸武香との交友である。武香は熊谷の冑山村の豪農根岸友山の息子で官僚になった人物である。また

『新編武蔵風土記稿』を出版し、古物の収集に熱心な「好古家」でもあった。^③【三三番】の石棒には「冑山村根岸武香君ヨリ贈ラル」と、武香より譲られた品であることが書かれている。また「明治三十一年根岸武香君ニ譲ル」と書かれた金銅製唐草文透彫棘付花弁形香葉の拓本（【参考一】）が残されており、これが興久から武香へ贈った遺物であろう。また「筑紫国御笠郡印・次田郷印」という武香の所蔵している印の絵が描かれた紙（【参考四】）も伝わっており、これも武香自身から入手したものである。このように武香とは特に深い関わりがあったと思われる。

また関保之助から譲られた「関保之助君贈ラル」と興久自身による紙片の付いた遺物が伝存する（【三四〓四五・五六〓六四番】）。これは先述のブリキ箱の中に保管されていた。関は帝室技芸員を務めた人物である。どのようなつながりによるものかは今後の課題である。他にも「明治十五年一月六日埼玉県七等属荻野重省君ヲ贈ラル所」と書かれた埼玉県職員である荻野重省から譲られた「磨製石斧」がある（【三三番】）。具体的な人名は以上の三名があげられる。

このように興久と好古家や愛好家といった人物との繋がりを示す資料は非常に少ない。現状では中央よりは、地元周辺で収集する比率が高かったとみられるが、中央との関わりについては今後追跡が必要であろう。

おわりに

以上のように諸井興久によって収集された考古資料の中で、興久による記録が残り、収集伝来のわかる遺物を中心に紹介してきた。埼玉県域を中心にした考古資料の伝来のみならず、明治時代を生きた地方の一収集家としての一端を見ることができた。これらの資料を今後の展示等に

も生かしていきたい。また、諸井興久の関係資料は考古資料以外にも伝存しているが、それらの集成・紹介は今後の課題としたい。

註

(1) 長谷川勇・石橋桂一「館有資料紹介 諸井家寄贈考古資料」(『本庄市立歴史民俗資料館紀要』創刊号、一九八六年)。

(2) 諸井興久については、埼玉県立文書館『武蔵国児玉郡本庄宿 諸井家文書目録』(一九六九年)、栗田たけし「諸井家談義」(『本庄市史拾遺』第十号、一九七〇年)、前掲「館有資料紹介 諸井家寄贈考古資料」、本庄市役所総務課秘書広報係『武州本庄宿ふるさと人物史Ⅰ』(本庄市、一九八九年)、柴崎起三雄『本庄人物事典』(私家版、二〇〇三年)を参照した。

(3) 根岸武香の「好古家」としての活動については、重田正夫「明治初期における武蔵の「好古家」 根岸友山と武香―上中条村出土の埴輪と黒瀬村横穴群の発掘を中心に―(上)(下)」(『熊谷市史研究』第六・七号、二〇一四・二〇一五年)、同「明治中期における「好古家」 根岸武香の活動―古見百穴・『新編武蔵風土記稿』・『史料通信叢誌』・集古会―」(『熊谷市史研究』第十五号、二〇一三年)、埼玉県立文書館『古物を伝える―好古家たちの埼玉―』(二〇一〇年)を参照した。

諸井興久収集考古資料 目録

縄文土器

番号	資料名	出土地	記載
1	把手	小谷玉村字狐塚出土	(貼紙)『入間小谷田村』
2	口縁	横見郡田甲村出土	『明治十五年六月二十三日横見郡田甲村字彦八道東塚上ニテ得ル』(朱)
3	把手	小谷玉村字狐塚出土	(貼紙)『入間小谷田村』
4	波状口縁	氷川神社出土	『明治十五年五月十五日武蔵国北足立郡氷川神社境内櫻山ニ於テ得ル所八個ノ一(朱)』
5	口縁	氷川神社出土	『氷川神社』(朱)
6	口縁	氷川神社出土	『氷川神社』(朱)
7	口縁	氷川神社出土	『氷川』(朱)
8	注口土器	氷川神社出土	(貼紙)『武蔵一ノ宮桜岡ニテ得ル』
9	口縁	氷川神社出土	『氷川ノ桜山』(桜ノ山)は一部摩滅(朱)
10	口縁	氷川神社出土	『氷川神社ノ桜山』
11	口縁	氷川神社出土	『氷川神社境内桜ノ岡』(朱)
12	口縁	小谷玉村字狐塚出土	(貼紙)『明治十三年十月一日入間郡小谷田村字狐塚ヨリ得ル所』
13	口縁	氷川神社出土	『氷川神社』(朱)
14	口縁	氷川神社出土	『氷川神社』(朱)
15	口縁	氷川神社出土	『氷川神社』(朱)
16	口縁	氷川神社出土	『氷川神社』(朱)
17	綱代底	氷川神社出土	『氷川神社』(朱)
18	綱代底	氷川神社出土	(貼紙)『武蔵一ノ宮境内桜山』

石器

番号	資料名	出土地	記載
19	石斧	氷川神社出土	『武蔵氷川』（朱）
20	石核	小谷玉村字狐塚出土	（貼紙）『明治十三年十月一日入間郡小谷田村字狐塚ヨリ得ル所』
21	打製石斧 分銅形	小谷玉村字狐塚出土	（貼紙）『明治十三年十月一日埼玉県下入間郡小谷田村字トウカ狐森稲荷社ノ左畑ヨリ得ル所数個則チ甲印ノ分之ナリ』
22	打製石斧 分銅形	小谷玉村字狐塚出土	（貼紙）『明治十三年十月一日入間郡小谷田村字狐塚ヨリ得ル所ナリ』
23	打製石斧	小谷玉村字狐塚出土	（貼紙）『明治十三年十月一日入間郡小谷田村字狐塚ヨリ得ル所ナリ』
24	打製石斧	小谷玉村字狐塚出土	（貼紙）『入間郡小谷田村字狐塚ヨリ得ル所時明治十三年十月一日』
25	石斧	小谷玉村字狐塚出土	（貼紙）『入間小谷田村』
26	局部磨製石斧	小谷玉村字狐塚出土	（貼紙）『入間小谷田村』
27	打製石斧	浅羽村字泰戸出土	（貼紙）『明治十五年五月十五日入間郡浅羽村字泰戸神社ノ傍ニ於テ得ル所也』
28	打製石斧	横見郡田甲村出土	『田甲村ニテ（カ）得ル所』（朱）
29	打製石斧 分銅形	横見郡田甲村出土	『明治十五年六月二十三日横見郡田甲村字彦八ノ塚上ニテ得』（朱）
30	打製石斧 分銅形	横見郡田甲村出土	『田甲村ニテ得ル所』（朱）
31	磨製石斧		『明治三十一年六月二十八日（一）武蔵国大里郡（根岸）』（朱）※一部判読難箇所あり
32	打製石斧		（貼紙）『曹山村根岸武香君ヨリ贈ラル』
33	磨製石斧		（貼紙）『明治十五年一月六日埼玉県七等属荻野重省君ヲ贈ラル所』
34	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	（紙片・箱）『武蔵国北豊島郡池袋村貝塚ヨリ得ル所共ニ拾貳個関係之助君贈ラル』【ブリキ箱2】
35	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	（紙片・箱）『武蔵国北豊島郡池袋村貝塚ヨリ得ル所共ニ拾貳個関係之助君贈ラル』【ブリキ箱2】
36	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	（紙片・箱）『武蔵国北豊島郡池袋村貝塚ヨリ得ル所共ニ拾貳個関係之助君贈ラル』【ブリキ箱2】
37	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	（紙片・箱）『武蔵国北豊島郡池袋村貝塚ヨリ得ル所共ニ拾貳個関係之助君贈ラル』【ブリキ箱2】

52	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『自武蔵国荏原郡馬込村貝塚所得同共二七個』【ブリキ箱2】
51	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『自武蔵国荏原郡馬込村貝塚所得同共二七個』【ブリキ箱2】
50	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『自武蔵国荏原郡馬込村貝塚所得同共二七個』【ブリキ箱2】
49	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『自武蔵国荏原郡馬込村貝塚所得同共二七個』【ブリキ箱2】
48	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『自武蔵国荏原郡馬込村貝塚所得同共二七個』【ブリキ箱2】
47	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『自武蔵国荏原郡馬込村貝塚所得同共二七個』【ブリキ箱2】
46	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『自武蔵国荏原郡馬込村貝塚所得同共二七個』【ブリキ箱2】
45	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『武蔵国北豊島郡池袋村貝塚ヨリ得ル所共二拾貳個関保之助君贈ラル』【ブリキ箱2】
44	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『武蔵国北豊島郡池袋村貝塚ヨリ得ル所共二拾貳個関保之助君贈ラル』【ブリキ箱2】
43	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『武蔵国北豊島郡池袋村貝塚ヨリ得ル所共二拾貳個関保之助君贈ラル』【ブリキ箱2】
42	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『武蔵国北豊島郡池袋村貝塚ヨリ得ル所共二拾貳個関保之助君贈ラル』【ブリキ箱2】
41	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『武蔵国北豊島郡池袋村貝塚ヨリ得ル所共二拾貳個関保之助君贈ラル』【ブリキ箱2】
40	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『武蔵国北豊島郡池袋村貝塚ヨリ得ル所共二拾貳個関保之助君贈ラル』【ブリキ箱2】
39	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『武蔵国北豊島郡池袋村貝塚ヨリ得ル所共二拾貳個関保之助君贈ラル』【ブリキ箱2】
38	石鏃	武蔵国北豊島郡池袋村貝塚	(紙片・箱)『武蔵国北豊島郡池袋村貝塚ヨリ得ル所共二拾貳個関保之助君贈ラル』【ブリキ箱2】

古墳出土品

番号	資料名	出土地	記載
65	滑石製斧形模造品 (手斧)	大和国三味田村字宝 塚古墳	(紙片) 表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ一・刀二・管十・勾玉 十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片
66	滑石製有孔円板(鏡)	大和国三味田村字宝 塚古墳	(紙片) 表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ一・刀二・管十・勾玉 十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片
67	滑石製刀子形模造品 (刀子)	大和国三味田村字宝 塚古墳	(紙片) 表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ一・刀二・管十・勾玉 十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片
68	滑石製刀子形模造品 (刀子)	大和国三味田村字宝 塚古墳	(紙片) 表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ一・刀二・管十・勾玉 十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片
69	滑石製管玉	大和国三味田村字宝 塚古墳	(紙片) 表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ一・刀二・管十・勾玉 十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片
70	滑石製管玉	大和国三味田村字宝 塚古墳	(紙片) 表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ一・刀二・管十・勾玉 十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片

53	石鏃		(紙片・箱) 『加賀国河北郡栗崎海辺ニテ所得共三個同前』【ブリキ箱2】
54	石鏃		(紙片・箱) 『加賀国河北郡栗崎海辺ニテ所得共三個同前』【ブリキ箱2】
55	石鏃		(紙片・箱) 『加賀国河北郡栗崎海辺ニテ所得共三個同前』【ブリキ箱2】
56	石鏃	北豊島郡池袋村貝塚	『北豊島郡池袋村貝塚一番』【ブリキ箱2包紙】
57	石鏃	北豊島郡池袋村貝塚	『北豊島郡池袋村貝塚一番』【ブリキ箱2包紙】
58	石鏃	北豊島郡池袋村貝塚	『北豊島郡池袋村貝塚一番』【ブリキ箱2包紙】
59	石鏃	北豊島郡池袋村貝塚	『北豊島郡池袋村貝塚一番』【ブリキ箱2包紙】
60	石鏃	北豊島郡池袋村貝塚	『北豊島郡池袋村貝塚一番』【ブリキ箱2包紙】
61	石鏃	北豊島郡池袋村貝塚	『北豊島郡池袋村貝塚一番』【ブリキ箱2包紙】
62	石鏃	北豊島郡池袋村貝塚	『北豊島郡池袋村貝塚一番』【ブリキ箱2包紙】
63	石鏃	北豊島郡池袋村貝塚	『北豊島郡池袋村貝塚一番』【ブリキ箱2包紙】
64	石鏃	北豊島郡池袋村貝塚	『北豊島郡池袋村貝塚一番』【ブリキ箱2包紙】

85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71
ガラス製丸玉	ガラス製丸玉	ガラス製丸玉	ガラス製丸玉	ガラス製丸玉	ガラス製丸玉	滑石製勾玉	滑石製勾玉	滑石製勾玉	滑石製勾玉	滑石製勾玉	滑石製勾玉	滑石製勾玉	滑石製勾玉	滑石製管玉
武州榛沢郡岡村古墳	武州榛沢郡岡村古墳	武州榛沢郡岡村古墳	武州榛沢郡岡村古墳	武州榛沢郡岡村古墳	武州榛沢郡岡村古墳	大和国三味田村字宝塚古墳	大和国三味田村字宝塚古墳	大和国三味田村字宝塚古墳	大和国三味田村字宝塚古墳	大和国三味田村字宝塚古墳	大和国三味田村字宝塚古墳	大和国三味田村字宝塚古墳	大和国三味田村字宝塚古墳	大和国三味田村字宝塚古墳
〔紙片・こより〕『武州榛沢郡岡村古墳出（朱印・「六鈴鏡に「六有軒」の文字」）』7個が一連（一括） 【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片①	〔紙片・こより〕『武州榛沢郡岡村古墳出（朱印・「六鈴鏡に「六有軒」の文字」）』7個が一連（一括） 【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片①	〔紙片・こより〕『武州榛沢郡岡村古墳出（朱印・「六鈴鏡に「六有軒」の文字」）』7個が一連（一括） 【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片①	〔紙片・こより〕『武州榛沢郡岡村古墳出（朱印・「六鈴鏡に「六有軒」の文字」）』7個が一連（一括） 【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片①	〔紙片・こより〕『武州榛沢郡岡村古墳出（朱印・「六鈴鏡に「六有軒」の文字」）』7個が一連（一括） 【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片①	〔紙片・こより〕『武州榛沢郡岡村古墳出（朱印・「六鈴鏡に「六有軒」の文字」）』7個が一連（一括） 【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片①	〔紙片〕表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ・刀二・管十・勾玉十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片	〔紙片〕表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ・刀二・管十・勾玉十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片	〔紙片〕表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ・刀二・管十・勾玉十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片	〔紙片〕表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ・刀二・管十・勾玉十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片	〔紙片〕表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ・刀二・管十・勾玉十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片	〔紙片〕表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ・刀二・管十・勾玉十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片	〔紙片〕表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ・刀二・管十・勾玉十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片	〔紙片〕表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ・刀二・管十・勾玉十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片	〔紙片〕表『年月不詳大和国広瀬郡三味田村字宝塚ヨリ出』裏『丸平壺・ノミ・刀二・管十・勾玉十二、右宝塚ノ古墳ヨリ出』【ブリキ箱1】 ※図版 ●ブリキ箱1 紙片

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86
金銅製鐙	金銅製棘葉形杏葉	金銅製棘葉形杏葉	金銅製棘葉形杏葉	金銅製唐草文透彫杏葉	金銅製帶金具	金銅製帶金具	金銅製帶金具	刀子	ガラス製小玉 一連	砥石	剣形石製模造品	石製丸玉	石製丸玉	ガラス製小玉	ガラス製丸玉	ガラス製丸玉	ガラス製丸玉	ガラス製丸玉	ガラス製丸玉
里見村古墳	將軍山古墳	將軍山古墳	將軍山古墳	里見村古墳	里見村古墳	里見村古墳	里見村古墳	飯玉古墳	將軍山古墳	里見村古墳	里見村古墳	里見村古墳	里見村古墳	里見村古墳	里見村古墳	里見村古墳	里見村古墳	里見村古墳	武州榛沢郡岡村古墳
(紙片)『明治二十九年冬 上毛国碓氷郡里見村古墳ヨリ出』【木箱1】※図版 ●木箱1 紙片④	(断片3点一括)【木箱2】	(貼紙)『明治二十八年秋十(朱で上から「冬」) 日武蔵国北埼玉郡埼玉村字將軍墳ヨリ発見ス堤根村増田氏被贈外三輪玉及小玉二百』【木箱2】	(貼紙)『二十八年北埼玉郡將軍墳出』【木箱2】	(紙片)「上野国碓氷郡里見村古墳ヨリ明治二十九年冬発堀(ママ)ス」【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片③	(紙片)「上野国碓氷郡里見村古墳ヨリ明治二十九年冬発堀(ママ)ス」【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片③	(紙片)「上野国碓氷郡里見村古墳ヨリ明治二十九年冬発堀(ママ)ス」【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片③	(紙片)「上野国碓氷郡里見村古墳ヨリ明治二十九年冬発堀(ママ)ス」【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片③	(武蔵国児玉郡本庄町字塚合飯玉古墳出土遺物)【木箱3】	(明治28年2月1日埼玉村字將軍山古墳より発見)【木箱2】	(明治29年冬 上毛国碓氷郡里見村古墳より出土)	(紙片)『三十一年十一月上毛国碓氷郡里見村古墳ヨリ出』【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片②	(紙片)『三十一年十一月上毛国碓氷郡里見村古墳ヨリ出』【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片②	(紙片)『三十一年十一月上毛国碓氷郡里見村古墳ヨリ出』【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片②	(紙片)『三十一年十一月上毛国碓氷郡里見村古墳ヨリ出』【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片②	(紙片)『三十一年十一月上毛国碓氷郡里見村古墳ヨリ出』【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片②	(紙片)『三十一年十一月上毛国碓氷郡里見村古墳ヨリ出』【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片②	(紙片)『三十一年十一月上毛国碓氷郡里見村古墳ヨリ出』【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片②	(紙片)『三十一年十一月上毛国碓氷郡里見村古墳ヨリ出』【木箱1】 ※図版 ●木箱1 紙片②	(紙片・こより)『武州榛沢郡岡村古墳出(朱印・「六鈴鏡に「六有軒」の文字)」7個が一連(一括)【木箱1】※図版 ●木箱1 紙片①

瓦

番号	資料名	出土地	記載
122	平瓦	入間郡浅羽村	(貼紙)『明治十五年五月十五日入間郡浅羽村字秦戸二秦戸神社アリ其傍二大小二塚アリ其小塚ヲ崩シタル脇二石塚アリ其衆石中ヨリ得ル』
121	平瓦	埼玉郡埼玉村	『入間郡浅羽村』(朱)の上に『北埼玉郡埼玉村寺ノ境内』(墨)と記載。張り紙の跡あり。
120	平瓦	埼玉郡埼玉村	『入間■村』(朱)の上に『北埼玉県埼玉村』(墨)と記載。張り紙の跡あり。
119	平瓦	入間小谷田村	(貼紙)『明治十三年十月一日入間郡小谷田村字狐塚ヨリ得ル所也』
118	平瓦	入間小谷田村	(貼紙)『入間小谷田村』
117	丸瓦	入間小谷田村	(貼紙)『明治十三年十月一日入間郡小谷田村字狐塚ヨリ得ル所也』

116	足金物	飯玉古墳	(武蔵国児玉郡本庄町字塚合飯玉古墳出土遺物)【木箱3】
115	足金物	飯玉古墳	(武蔵国児玉郡本庄町字塚合飯玉古墳出土遺物)【木箱3】
114	貴金具	飯玉古墳	(武蔵国児玉郡本庄町字塚合飯玉古墳出土遺物)【木箱3】
113	鞆口金具	飯玉古墳	(紙片)『明治二十年十八日武蔵国児玉郡本庄(ママ)町字塚間飯玉古墳ヨリ発見此外二長剣小刀アリ』 【木箱3】※図版 ●木箱3紙片
112	鞆口金具	飯玉古墳	(紙片)『明治二十年十八日武蔵国児玉郡本庄(ママ)町字塚間飯玉古墳ヨリ発見此外二長剣小刀アリ』 【木箱3】※図版 ●木箱3紙片
111	鞆口金具	飯玉古墳	(紙片)『明治二十年十八日武蔵国児玉郡本庄(ママ)町字塚間飯玉古墳ヨリ発見此外二長剣小刀アリ』 (貼紙)『明治二十一年一月十八日武蔵国児玉郡本庄町字飯玉古墳ヨリ発見七ノ内』【木箱3】※図版 ●木箱3紙片
110	切羽・鍬	飯玉古墳	(紙片)『明治二十年十八日武蔵国児玉郡本庄(ママ)町字塚間飯玉古墳ヨリ発見此外二長剣小刀アリ』 【木箱3】※図版 ●木箱3紙片
109	圭頭大刀把頭	飯玉古墳	(貼紙)『二十一年一月一八日外数種本庄宿字飯玉ヨリ得処七ノ内』【木箱3】
108	金銅製三輪玉	將軍山古墳	(明治28年2月1日埼玉村字將軍山古墳より発見)【木箱2】
107	水晶製三輪玉	將軍山古墳	(明治28年2月1日埼玉村字將軍山古墳より発見)「本庄」と貼紙あり【木箱2】
106	金銅製獅嘴環頭把頭	將軍山古墳	(紙片)表『上野国碓氷郡八幡村大字若田村ノ内狐塚傍ノ墳ヨリ明治三十一年』裏『日失念発堀(ママ)ス』【木箱1】※図版 ●木箱1紙片⑤

125	平瓦	埼玉郡埼玉村	『入間郡浅羽村』(朱)の上に『北埼玉郡埼玉村』
124	丸瓦		『比企郡』(朱)
123	平瓦	筑波郡筑波町	(貼紙)『常陸国筑波郡筑波町国造屋敷跡ヨリ得ル所干時明治十二年三月』

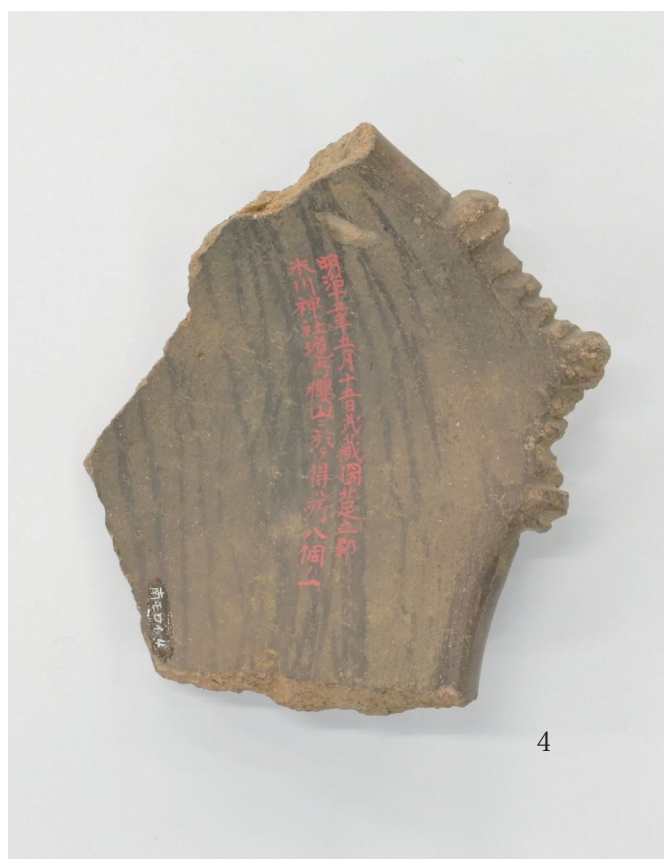
その他

番号	資料名	出土地	記載
126	須恵器	入間郡浅羽村	(貼紙)『明治十五年五月十五日入間郡浅羽村字泰戸小塚ヲ崩シタル跡ニ於ニ(ママ)得ル』
127	砥石(銭用)	南葛飾郡亀井戸	『武蔵国南葛飾郡亀井戸町寛文天和年度ノ鑄銭所跡ヨリ三十二年六月十六日得ル所也』(朱)
128	砥石(銭用)	南葛飾郡亀井戸	『三十二年六月十六日亀井戸銭座跡ヨリ得ル』(朱) 一部貼紙付着
129	かわらけ		『明治十一年戊寅三月十日仁王門西方井内出ル』
130	かわらけ(須恵質系切底)		『明治六年癸酉九月 日二王門東大杉根下従出ル』
131	二枚貝化石		『秩父久那村』(朱)
参考1	金銅製唐草文透彫棘付花弁形杏葉(拓本)		『明治三十年十二月上野国碓氷郡里見村某古墳ヨリ出 馬具胸懸杏葉銅渡金 明治三十一年根岸武香君二譲ル』
参考2	尚方作神人歌舞画像鏡(拓本)		『福田禮藏君ノ祖先畑六郎土着旧地武蔵国那珂郡秋山村旧屋敷跡ヨリ弘化 年 月 借地人某井戸ヲ掘穿際得ル所 今荻野竹五郎君方ニ藏ス』(朱)
参考3	古文書 証(土器三器受取につき)		
参考4	印写(根岸武香所蔵印画)		

凡例

- ・記載は特に断りがなければ墨で記入されたもの。
- ・(朱) は朱で記入されたもの。
- ・貼り紙の上に文字が書かれているものは(貼紙)

- ・特に断りがなければ遺物に直接記入されているもの・記載されている文字は『』で括っている
- ・旧字は新字に直した
- ・誤字と思われるものについては史料上の表記のままとし、(ママ)と補った。また推定の場合、(カ)と補った。判読不明の文字は■で示した。
- ・遺物に記録をつける貼紙以外で、旧所蔵者による整理の過程などで付着したと考えられる紙片については「貼紙付着」と記した。
- ・遺物自体に記載が無くとも保管状況等から出土古墳が確定できるものについては()で出土古墳名を補った。
- ・諸井興久が箱に分けて保存したことがわかる、または現状もそのようになっているものについては以下の略称でその旨を記した。
 - かつて木箱1に入っていたものは【木箱1】
 - かつて木箱2に入っていたものは【木箱2】
 - かつて木箱3に入っていたものは【木箱3】
 - ブリキ箱1に入っていたものは【ブリキ箱1】
 - 現在、ブリキ箱2に入っているものは【ブリキ箱2】
 - 現在、ブリキ箱2の中で包紙にくるまれているものは【ブリキ箱2包紙】
- ・【木箱1】には興久によって出土品のまとまりごとに紙片が付けられていた。そのため出土地理解の一助のため、目録の「記載」欄には遺物ごとに記載内容を記してある。その際、図版と対応させるため ※図版 ●木箱1 紙片①～⑤ と記した。
- ・ブリキ箱2内の紙片は1出土地につき1枚が記入され、箱に括り付けられている。だが出土地理解の一助のため、目録の「記載」欄には遺物ごとに記載内容を記してある。
- ・ブリキ箱2内の括り付けられている紙片は(紙片・箱)と表した。
- ・紙片をこよりで遺物に結び付けてあるものについては(紙片・こより)と表した。
- ・出土地記載がないため目録には記載してないが【木箱1】には他に耳環3点が入っていた。





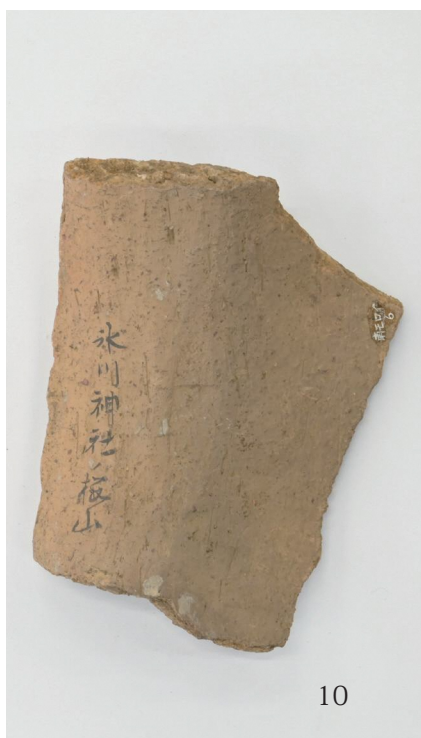
7



8



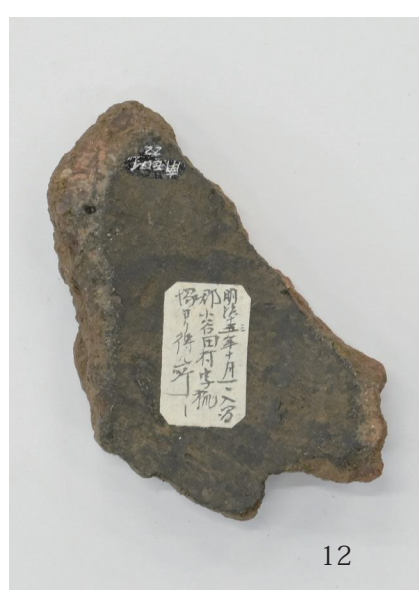
9



10



11



12



13



14



15



16



17



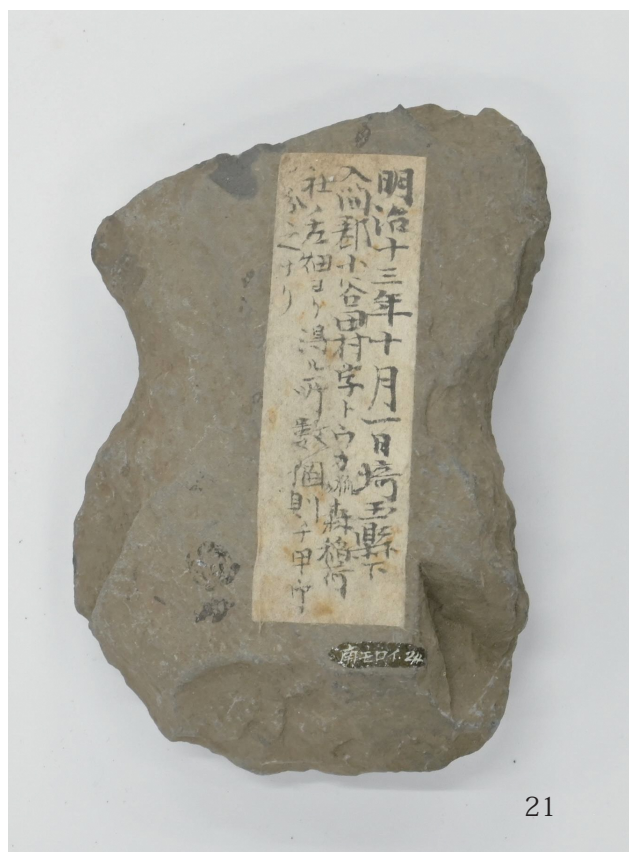
19



18



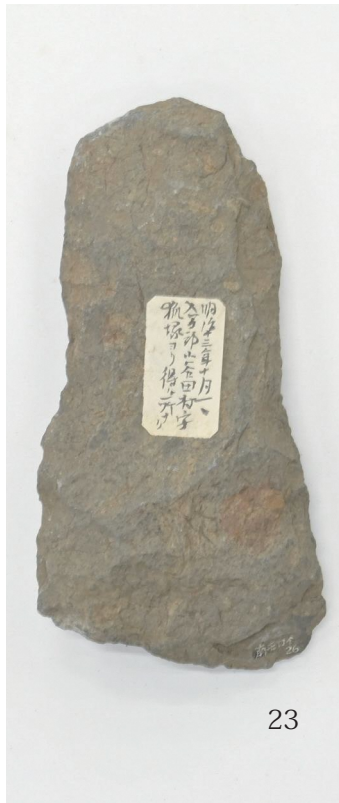
20



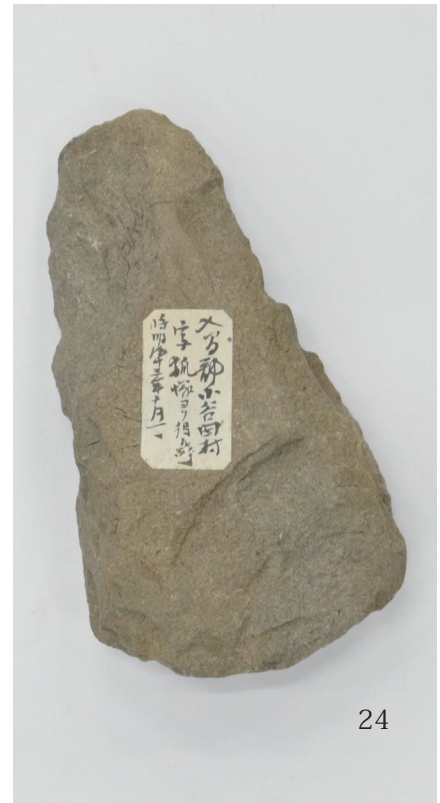
21



22



23



24



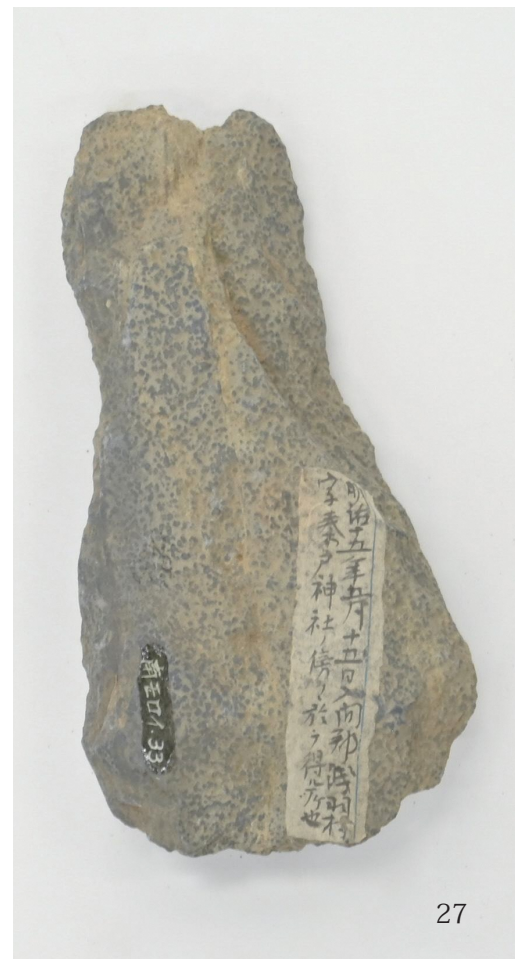
25



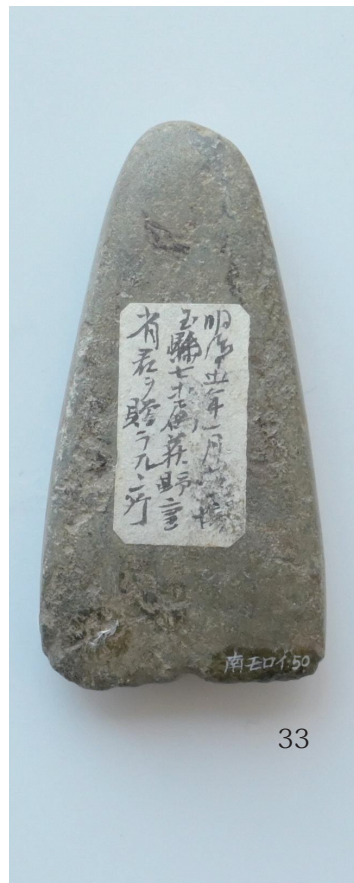
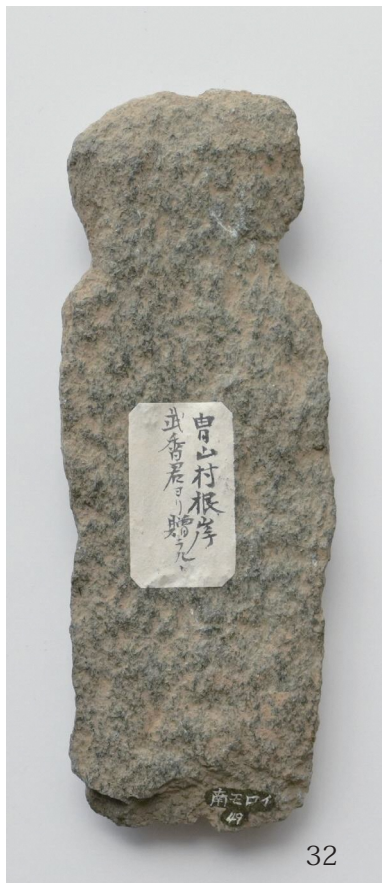
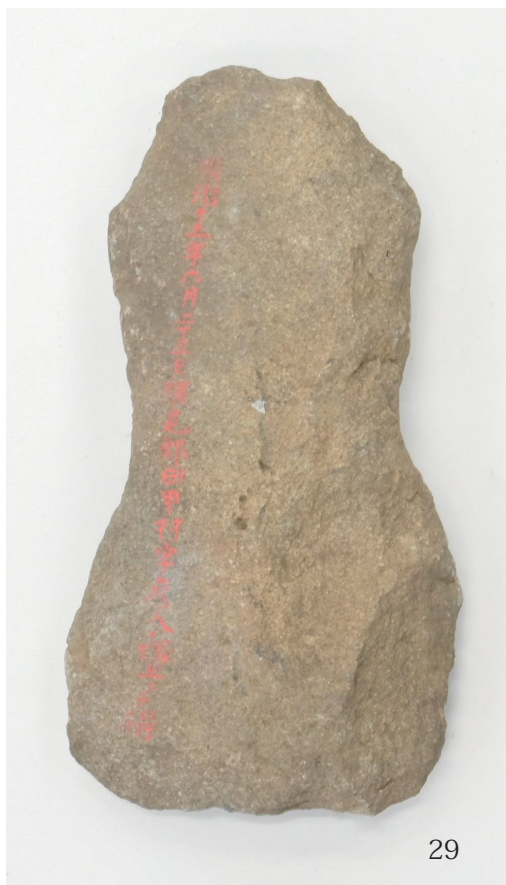
26



28

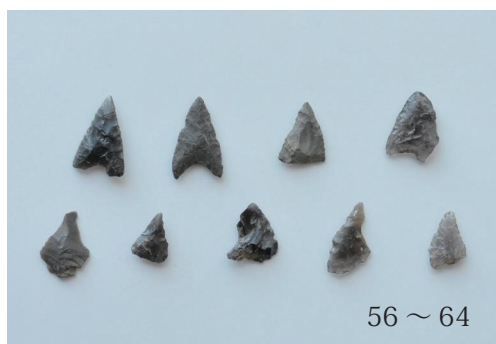


27





34 ~ 55



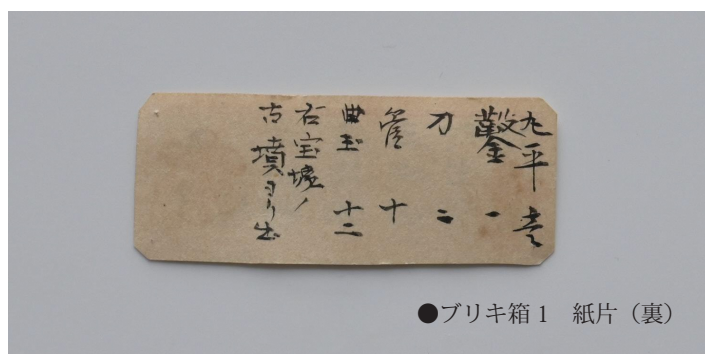
56 ~ 64



●ブリキ箱 1
紙片 (表)

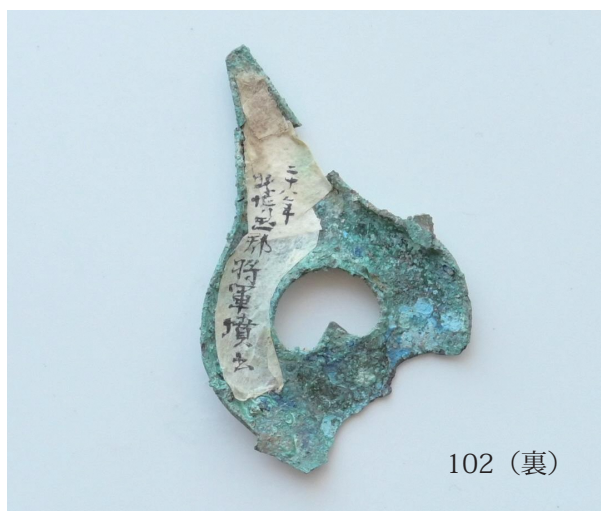
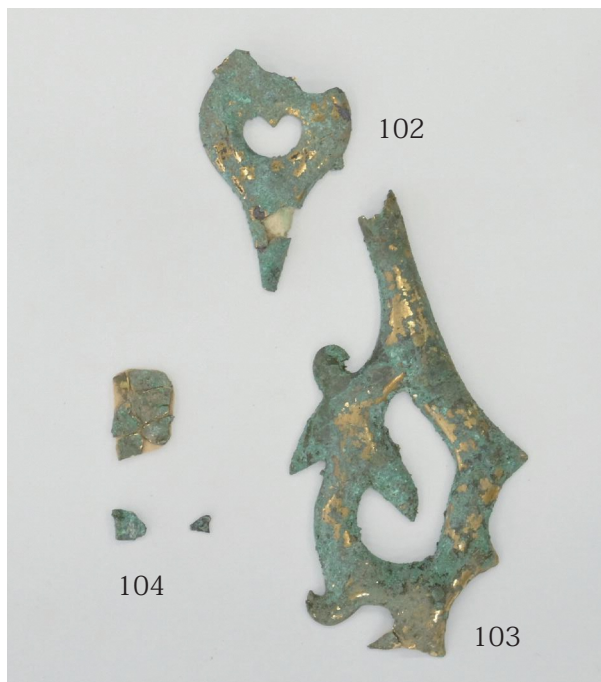


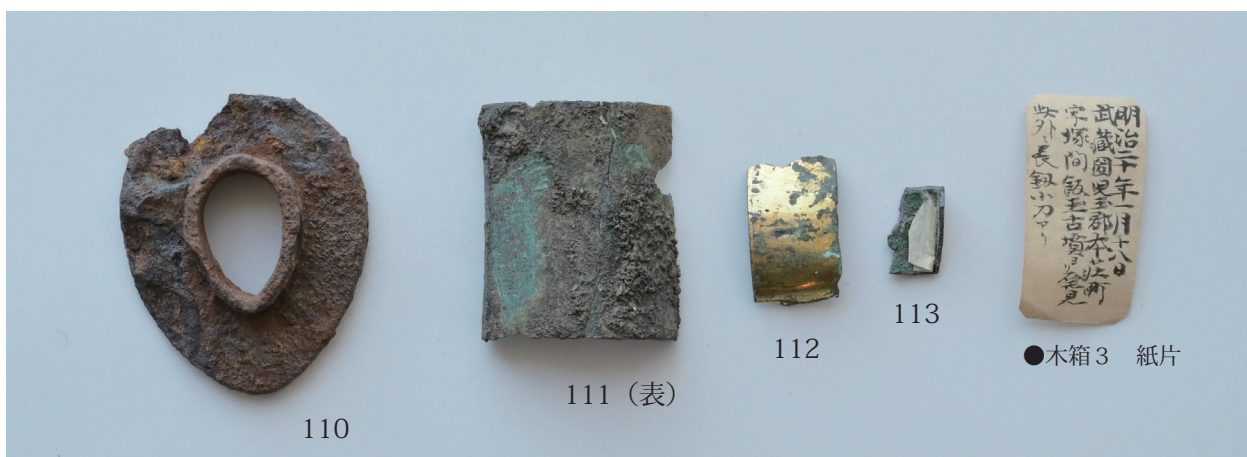
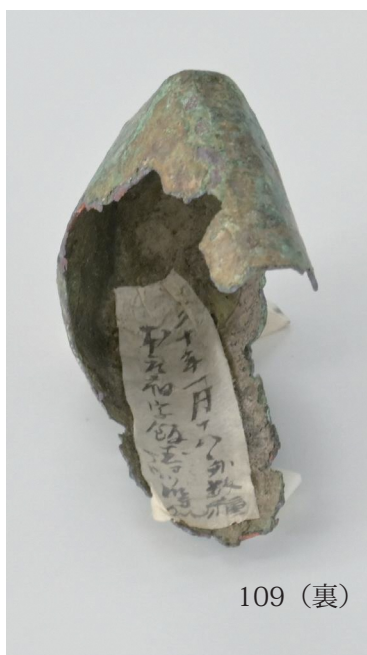
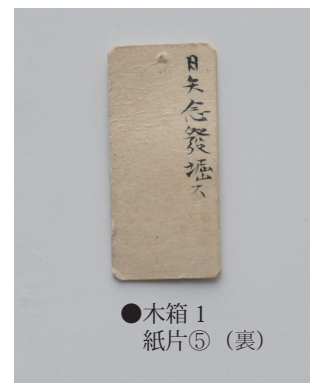
ブリキ箱 2 包紙

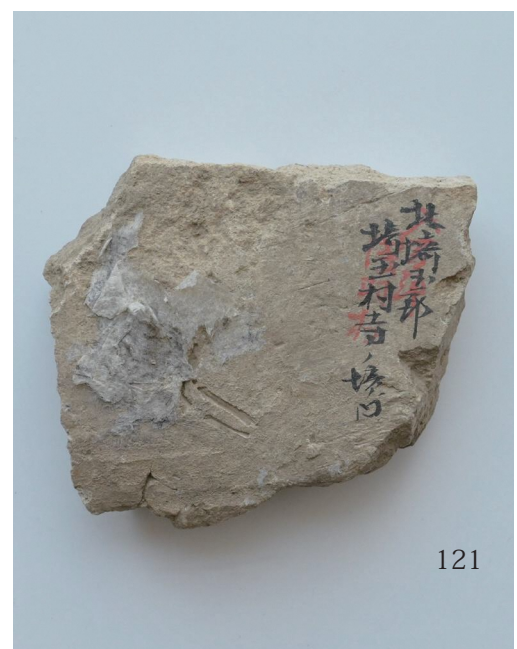
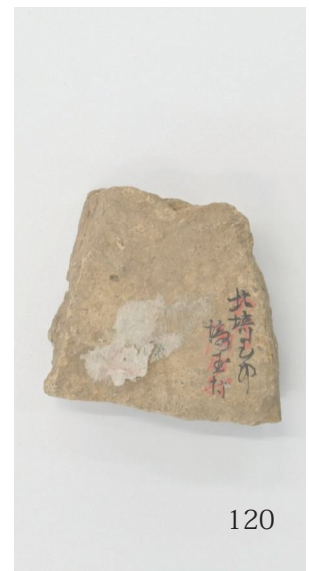
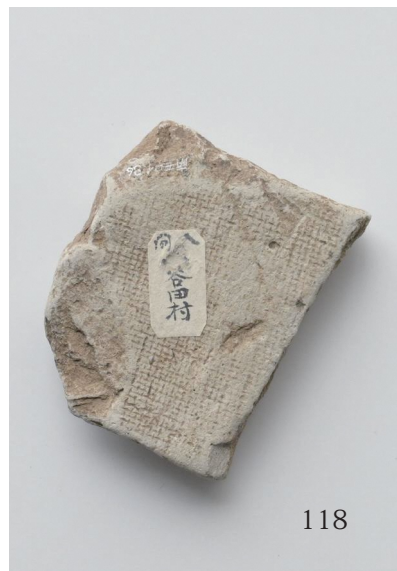
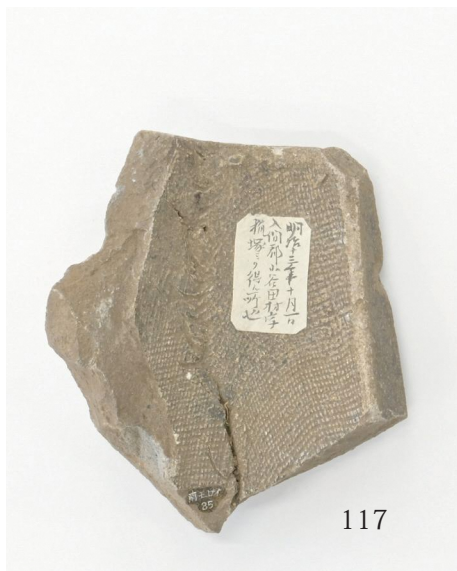


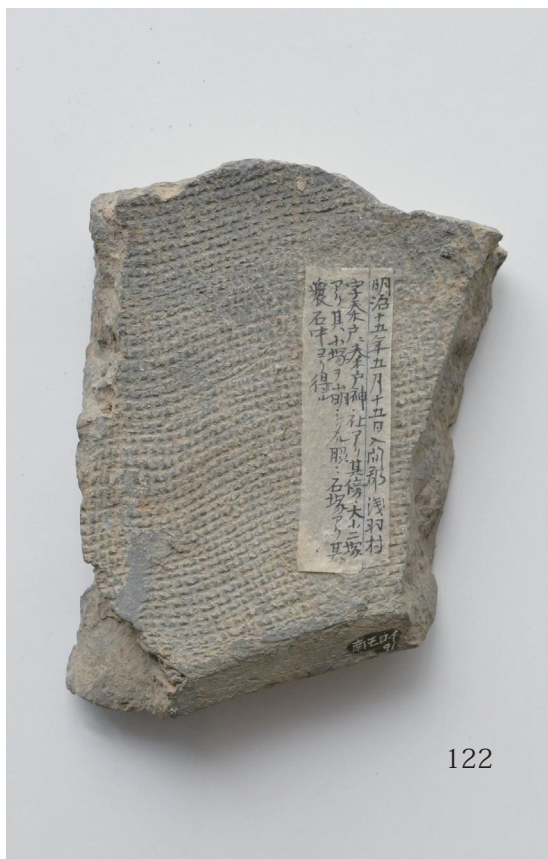
●ブリキ箱 1 紙片 (裏)











122



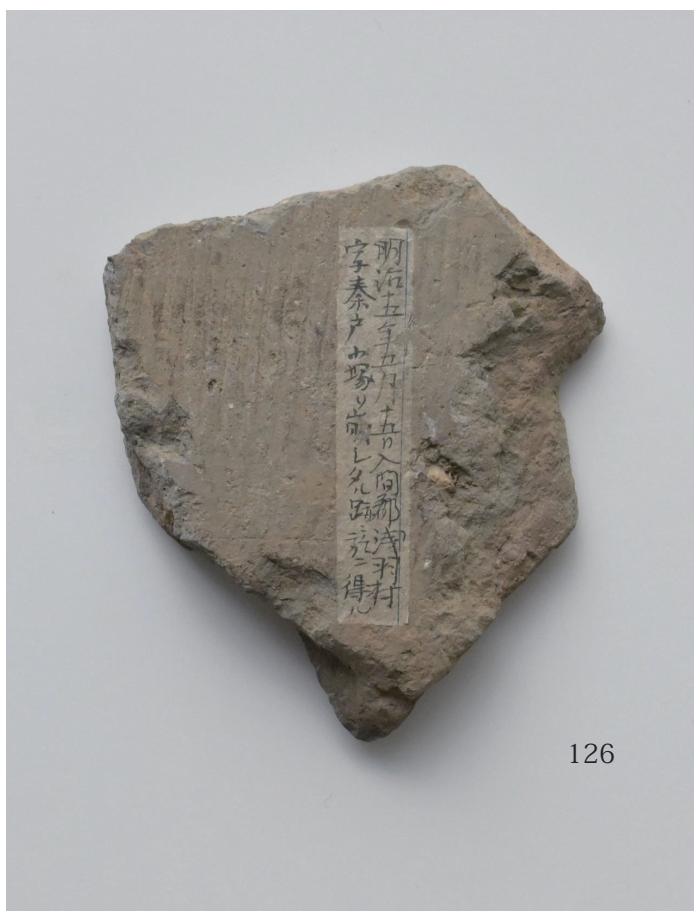
123



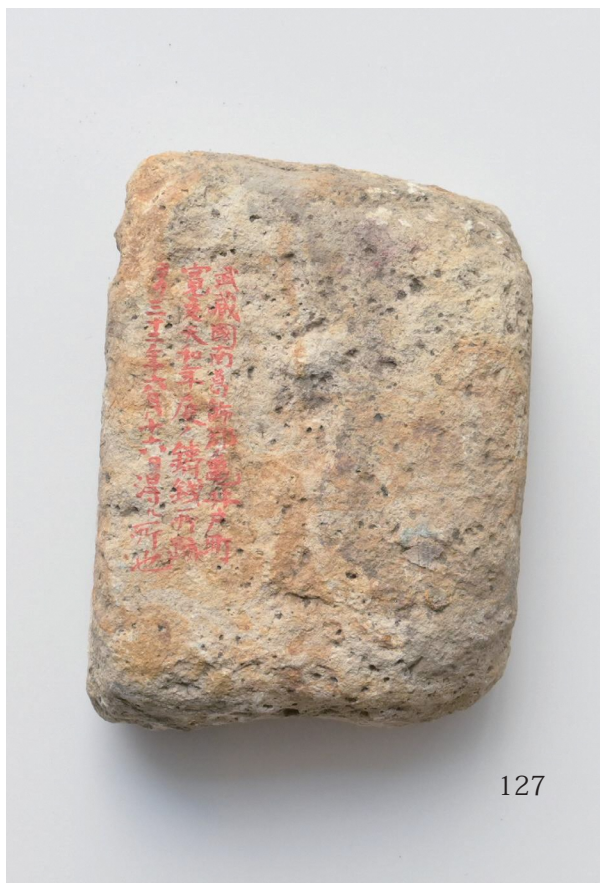
124



125



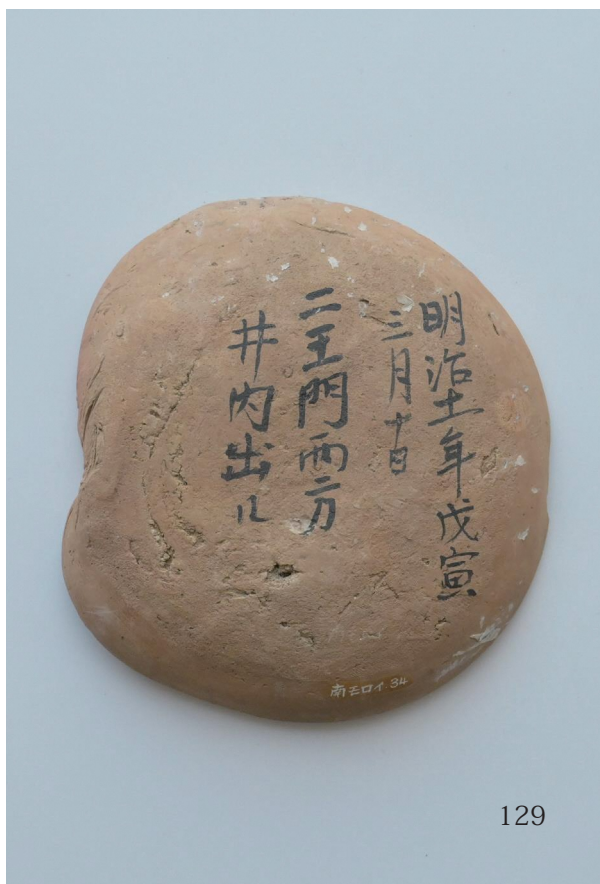
126



127



128



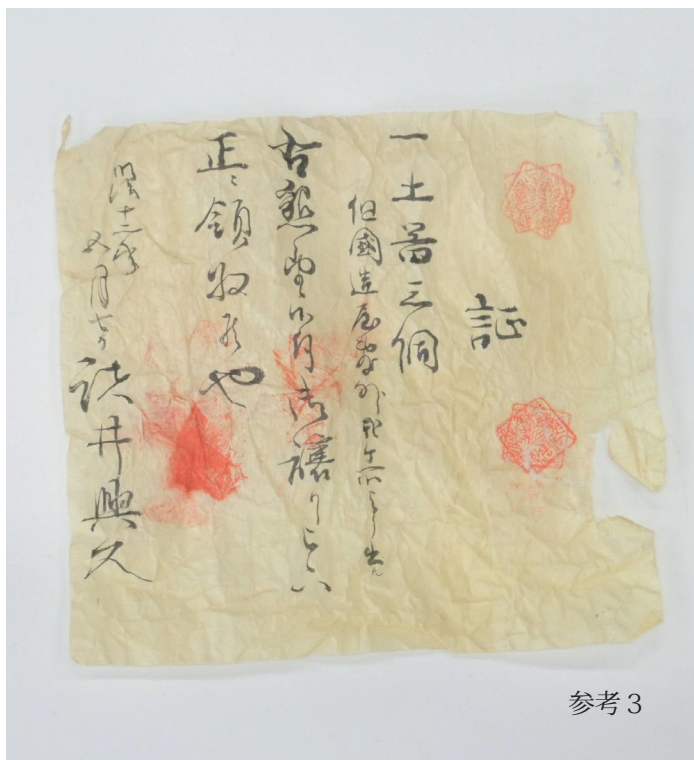
129



130



131



参考 3



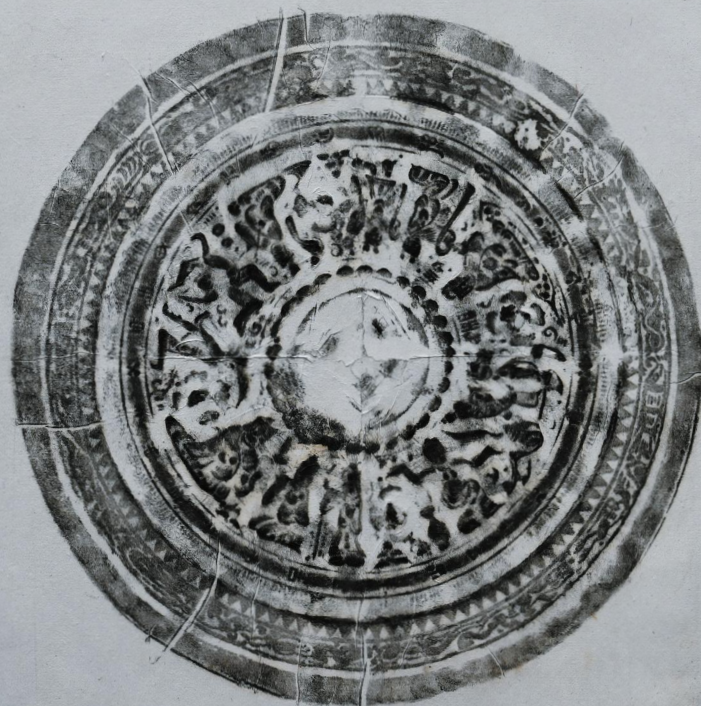
参考 1



参考 4

福田禮藏君祖兄畑六郎土着旧地新康國郡秋山村旧在敷跡弘化年月
今蘇野竹五郎君方藏之

傷心某升戶之塚穿陰得此



参考 2

